

eucoms.net

saudemental.min-saude.pt

日本語訳版

自動翻訳をベースとして作成しています。原文には各プレゼンテーションのスライドへのリンクがありますが、翻訳版はありません。翻訳内容等、詳細は原文をご参照ください。

翻訳・監修: JCOMHS

(地域精神保健サービス提供者日本ネットワーク)

MEETING REPORT

地域社会における持続可能な メンタルヘルス

場所

ポルトガル、リスボン
2024年11月21日～22日

イベント

地域社会における持続可能な
メンタルヘルス

ポルトガル国家精神保健政策調整局との協力による
EUCOMSネットワークセミナー



Coordenação Nacional
das Políticas de Saúde Mental

Author: Ovidiu Oniciuc

EUCOMS Secretariat

第13回 EUCOMSミーティング

地域社会における
持続可能なメンタルヘルス

地域社会における
持続可能なメンタルヘルス

ポルトガル、リスボン
2024年11月21～22日

主催者
EUCOMS ネットワーク
ポルトガル精神保健政策全国調整機構



Coordenação Nacional
das Políticas de Saúde Mental

CONTACT DETAILS FOR EUCOMS:
INFO@EUCOMS.NET
PHONE: +31 6 12361342 (RENÉ KEET - CHAIR)

Table of Contents

イントロダクション	4
第1日目 プレゼンテーション	5
第1日目 まとめ	23
現地視察：説明とインプレッション	24
第2日目 プレゼンテーション	32
閉会の辞	39

イントロダクション

セミナーからの洞察
コミュニティにおける持続可能なメンタルヘルス

2024 年 11 月 21 日～22 日にポルトガルのリスボンにある Fundação Oriente 博物館で開催された EUCOMS (欧州地域精神保健サービス提供者ネットワーク) リスボン セミナーの最終報告書を発表できることを誇りに思います。当初は 100 人未満の参加者を対象とした親密なセミナーとして構想されていましたが、ヨーロッパ全土の 11 か国から 350 人の参加者を迎えることができうれしく思います。圧倒的な反響により、この集まりは活気に満ちた影響力のある会議となり、取り上げられたトピックの重要性とメンタルヘルスコミュニティの熱意を強調しました。

この会議は「コミュニティにおける持続可能なメンタルヘルスとポルトガルのメンタルヘルス改革」というテーマを中心に行われ、次のような重要なトピックを探求するプラットフォームを提供しました。

- ・ コミュニティメンタルヘルスチーム (CMHT) のトレーニングと実装
- ・ 持続可能なリカバリーとインクルージョン (包摂) の実践
- ・ ピアサポートとリカバリーカレッジの経験
- ・ ハウジングファーストの取り組みと社会的処方
- ・ さまざまなヨーロッパ諸国のメンタルヘルス改革の例

このレポートには、プレゼンテーションの要約、講演者のプロフィール、厳選された PowerPoint スライド、およびリスボンの革新的なコミュニティメンタルヘルスプロジェクトの現場訪問の写真と説明が含まれています。これらの訪問は、ポルトガルのメンタルヘルス改革の目覚ましい進歩を示し、参加者に現実世界のインスピレーションを与えました。

このレポートがイベントの精神を捉え、持続可能なメンタルヘルスケアの継続的なコラボレーションと進歩のためのリソースとして役立つことを願っています。この会議を大成功に導いてくださったすべての講演者、参加者、主催者に感謝します。

第1日目 プレゼンテーション

演者と各プレゼンテーションについて

EUCOMS リスボンミーティングは、3 人の著名な人物による温かい開会の挨拶で始まり、イノベーション、コラボレーション、持続可能なメンタルヘルスクエアに焦点を当てたイベントの雰囲気盛り上げました。

- ポルトガルのメンタルヘルス政策の国家コーディネーターである Miguel Xavier 氏は、ポルトガルがメンタルヘルス改革で成し遂げた進歩と、コミュニティベースのメンタルヘルスクエアを促進するための継続的な取り組みの重要性を強調しました。
- EUCOMS ネットワークの議長であり、GGZ Noord-Holland-Noord の FIT アカデミーのディレクターである René Keet 氏は、ヨーロッパ全体で進歩を推進する上でのコラボレーションと知識の交換の役割を強調しました。
- Joaquim Gago 氏（医学博士、理学修士、博士、精神科医および心理療法士、ポルトガルのメンタルヘルス政策の国家コーディネーターのメンバー）



ポルトガルにおけるメンタルヘルス改革: 成果と課題



Miguel Xavier

医学博士、博士、精神科医、国家メンタルヘルス政策調整ディレクター
NOVAメディカルスクール教授

ミゲル・ザビエル医学博士は、ポルトガル保健省の国家精神保健政策調整局長を務めており、NOVAメディカルスクール-UNLの精神医学および精神保健の教授でもあります。また、リスボン西部病院精神科の上級コンサルタントでもあり、ポルトガルの精神保健改革の重要人物としての役割に、豊富な臨床、学術、政策の専門知識をもたらしています。

ザビエル教授は、2021年1月に保健大臣から正式に精神保健政策の国家コーディネーターに任命され、共和国官報に掲載された発表です。この役職は、保健総局内の精神保健国家プログラム（PNSM）のディレクターとして、国家精神保健計画の策定と監督に尽力してきた同教授の長年にわたる国家精神保健計画への取り組みを強調するものです。

同教授の仕事は、国家レベルと地域レベルの両方で精神保健サービスを組織するための、調整された証拠に基づく原則の実施に重点を置いています。これには、関連する法的枠組みに概説されているように、メンタルヘルス政策の戦略的計画、推進、評価が含まれます。ザビエル教授は、PRR（リカバリーとレジリエンスプラン）に基づく資金の配分やポルトガルのメンタルヘルス法の改正など、構造的変化を活用して改革の障壁を克服することを強調しています。

[CLICK HERE FOR MIGUEL'S PRESENTATION](#)

(注:原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

ポルトガルにおける CMHT のトレーニングと実装: 最新情報と今後の方向性



Joaquim Gago

医学博士、理学修士、博士、精神科医および心理療法士コンサルタント

ジョアキン・ソウザ・ガゴ博士は、医学博士、心理学博士で、リスボン西部保健医療協会の精神科コンサルタントとして、オエイラス地域精神保健チーム (CMHT) と連携し、NOVA 医科大学の精神科助教を務めています。また、ポルトガル精神保健政策全国調整機構 (CNPSM) のメンバーでもあり、ポルトガルの精神保健改革の主要提唱者でもあります。

ガゴ博士は、CNPSM、保健省、EUCOMS ネットワーク間の連携強化に尽力し、国際的なベストプラクティスをポルトガルの精神保健政策に統合するのを支援しています。彼は、CBT ポルトガル協会 (APTCCI)、ポルトガル家族療法協会、国際早期精神病協会 (IEPA) などの組織に積極的に関与しており、ポルトガル精神医学・精神衛生協会 (SPPSM) の早期精神病ポルトガル支部の会長を務めています。

コミュニティメンタルヘルスチーム (CMHT) のトレーニングと実装、および重度の精神疾患向けプログラムの開発に重点を置いて、ガゴ博士はポルトガルのメンタルヘルスケアを包括的でコミュニティベースのモデルに移行する上で重要な役割を果たしてきました。

特に、ガゴ博士は EUCOMS ネットワークとの主要なつながりの1つとして機能し、CNPSM、保健省、EUCOMS 間の連携を強化して、メンタルヘルス改革のための貴重なパートナーシップを促進しました。

[CLICK HERE FOR JOAQUIM'S PRESENTATION](#)

(注: 原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)



Maria João Marques

博士、修士、NOVA国立公衆衛生大学院の研究者、NOVA高齢化グループの共同コーディネーター

Maria João Marques 博士は、NOVA 国立公衆衛生学校の研究者で、グローバル公衆衛生の博士号と高齢化と健康の修士号を取得しています。NOVA 高齢化グループの共同コーディネーターを務め、ヘルスプロモーション、メンタルヘルス、脆弱な集団の医療サービスへのアクセスに焦点を当てた国際および国内プロジェクトで豊富な経験を持っています。Marques 博士は、実装科学、混合手法研究、コミュニティベースの参加型アプローチを通じて介入とポリシーを開発および評価することに特に長けています。また、INTERDEM ネットワークとポルトガル家族療法協会のメンバーでもあります。

Marques 博士は、EUCOMS リスボン会議の開催に重要な役割を果たし、Joaquim Sousa Gago 博士と緊密に協力して、イベントが国際的なベストプラクティスと EUCOMS ネットワークの目標に沿うようにしました。彼女の貢献は、セミナーの形成と国内外の利害関係者間の協力の促進に大きく貢献しました。

セミナー中に彼女が行ったプレゼンテーションには機密データが含まれており、公開することはできませんでしたが、彼女の洞察は非常に貴重でした。マルケス博士は、セミナーの成功における重要な役割と、メンタルヘルス政策と介入の改善への献身により、このレポートで特別に評価されるに値します。



Diogo Francisco Rodrigues

医学博士、修士号、Unidade Local de Saúde de Lisboa Ocidental の精神医学レジデント、およびメンタルヘルス研究者

ディオゴ・フランシスコ・ロドリゲスは、NOVA メディカルスクールで医学修士号を取得しており、現在は Unidade Local de Saúde de Lisboa Ocidental の精神科研修医として、Oeiras コミュニティメンタルヘルスチームと緊密に連携しています。NOVA SBE でヘルスケア管理の大学院学位を取得しており、リスボン国際グローバルメンタルヘルスのメンタルヘルスポリシーとサービスコースに在籍しています。

ロドリゲス博士は、ポルトガルの病院センターの医療従事者の間でのメンタルヘルスのスティグマ（偏見）に焦点を当てたメンタルヘルス研究に積極的に関与しています。また、ポルトガルのメンタルヘルスポリシー調整局と協力して、ポルトガルのコミュニティメンタルヘルスチームの影響を評価しています。

セミナーでは、ロドリゲス博士がマリア・ジョアン・マルケス博士と共同で発表し、共同研究に関する貴重な洞察を提供しました。ただし、発表のデータは機密扱いのため、公開することはできませんでした。ロドリゲス博士の貢献はマルケス博士と並んで極めて重要であり、ポルトガルにおけるメンタルヘルス研究と政策評価の推進における彼の役割は認められるに値します。

臨床実践における 3つのCMHT: 課題、持続可能性、発展



Teresa Maia

医学博士、博士号、フェルナンド・フォンセカ病院のメンタルヘルス部門長、リスボンのメンタルヘルス地域コーディネーター

テレサ・マイア博士は、臨床リーダーシップとメンタルヘルス政策の分野で豊富な経験を持つ精神科医です。2013年からフェルナンド・フォンセカ病院のメンタルヘルス部門の責任者を務め、2016年からはリスボン地域のメンタルヘルス地域コーディネーターを務めています。以前は、フェルナンド・フォンセカ病院の臨床ディレクターおよび理事、同病院の医療研修コーディネーターを務めていました。

マイア博士は、国立公衆衛生学校で健康促進の博士号を取得しており、研究は「母子関係の決定要因」に焦点を当てています。また、国立公衆衛生学校の教授でもあり、メンタルヘルスと健康促進の教育と研究に貢献しています。

マイア博士は、EEEEA助成金とカルースト・グルベンキアン財団の支援を受けて、精神疾患を持つ親の子どものメンタルヘルス促進と妊娠中および生後1年間の母親のメンタルヘルスに焦点を当てたセメンテプログラムなど、革新的なメンタルヘルスプログラムにおけるリーダーシップで知られています。

EUCOMS リスボン会議では、マイア博士はパネルディスカッション「臨床実践における3つのCMHT - 課題、持続可能性、および開発」のモデレーターを務めました。彼女のモデレーターとしての活動により、精神保健システムに関する深い知識と経験を活かして、コミュニティメンタルヘルスチームの実践的な実装と進化に関する重要な議論が促進されました。モデレーターとしてのマイア博士の役割により、パネルディスカッションは貴重な洞察で豊かになり、講演者と参加者の間で有意義な交流が促進されました。

ベジャ・コミュニティメンタルヘルスチームにおける 臨床実践



Maria Mouzinho

医学博士、ULS バイショ アレンテージョの精神科研修医、ベジャコミュニティメンタルヘルスチームのメンバー

マリア・モウジーニョ博士は、ULS バイショ・アレンテージョの精神科研修医であり、重度の精神疾患を持つ人々に対する持続可能な地域密着型のケアに注力するベジャのコミュニティ・メンタルヘルス・チームのメンバーです。

現在、彼女はメンタルヘルス政策とサービスに関するリスボン国際学習プログラムに在籍しており、ポルトガル家族療法協会で体系的実践と家族療法の研修を受けています。

EUCOMS リスボン会議へのモウジーニョ博士の貢献は、持続可能な統合アプローチに沿った地域密着型の家族中心のメンタルヘルス・ケアを推進する彼女の献身を際立たせました。



Célia Santos

バイショ・アレンテージョの精神科コンサルタントおよびコミュニティメンタルヘルスチームのコーディネーター、医学博士

セリア・サントス博士は、2015年からバイショ・アレンテージョ地方保健局の精神科コンサルタントを務めており、セルパ、モウラ、ヴィディゲイラ、フェレイラ・ド・アレンテージョ、アルジュストレルにサービスを提供するコミュニティ精神保健チームの調整役を務めています。

また、個人的な実践も行っており、ベジャ工科大学の学生、教師、スタッフ向けの精神保健サービスをサポートしています。彼女のリーダーシップとコミュニティ中心のケアへの献身は、バイショ・アレンテージョにおける持続可能な精神保健サービスの推進に重要な役割を果たしています。

[CLICK HERE FOR MARIA & CÉLIA'S PRESENTATION](#)

(注: 原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

ダオ・ラフェス・コミュニティメンタルヘルスチーム 挑戦、持続可能性、発展



Filipa Lopes

ビゼウ・ダオ・ラフォエス地域保健
ユニットの作業療法士

フィリパ・カタリーナ・ロペス氏は、この分野で21年以上の経験を持つ熟練した作業療法士です。アルコイタオ高等健康学校で学士号を取得し、コインブラ大学で特殊集団の健康と運動に関する大学院資格を取得しています。

18年間、ビゼウ脳性麻痺協会働き、脳性麻痺の患者を支援してきました。2021年以降、ビゼウ・ダオ・ラフォエス地域保健ユニットの先駆的な多職種コミュニティメンタルヘルスチームの一員として、コミュニティベースのメンタルヘルスケアに彼女の専門知識が大きな変化をもたらし続けています。



Hugo Afonso

医学博士、精神科医、ダオ・ラフォンイス・コミュニティメンタルヘルスチームのコーディネーター

ヒューゴ・アフォンソ博士は、2020年からヴィゼウ・ダオ・ラフォンイス地方保健協会の精神科医を務めています。2021年には、ダオ・ラフォンイス地域精神保健チームのコーディネーターに就任し、地域にコミュニティベースのメンタルヘルスケアとサポートを提供する取り組みを主導しています。彼の仕事は、統合された持続可能な精神保健サービスの促進に重点を置いています。

[CLICK HERE FOR FILIPA & HUGO'S PRESENTATION](#)

(注: 原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

オウレン・コミュニティメンタルヘルスチームにおける 臨床実践



Inês Fernandes

医学博士、トマール病院の精神科顧問医（ULSMT）

イネス・フェルナンデス博士は、コインブラ大学で医学修士号を取得し、認知行動療法、司法精神医学、メンタルヘルスの大学院資格を取得しています。

現在、彼女はトマール病院（ULSMT）の精神科医コンサルタントとして、オウレンの成人向けコミュニティメンタルヘルスチームと電気けいれん療法ユニットで働いています。彼女はポルトガルと英国の主要病院で、コミュニティ精神医学、リエゾン精神医学、老年精神医学、摂食障害、電気けいれん療法のトレーニングを受けています。



Jorge Miguel da Silva Carvalheiro

医学博士、ULS Médio Tejoのコミュニティ精神医学コーディネーター

ホルヘ・ミゲル・ダ・シルバ・カルヴァリエイロ博士は、コミュニティ精神保健の分野で豊富な経験を持つ精神科医です。2011年から2016年まで、コインブラ大学病院センターの「レイリア・ノルテ」コミュニティメンタルヘルスチームに所属していました。

2016年以降、ULSメディオ・テージョ精神科サービスでコミュニティ精神医学のコーディネーターを務め、2021年からはオウレンコミュニティメンタルヘルスチームのコーディネーターを務めています。カルヴァリエイロ博士のリーダーシップは、持続可能で統合されたコミュニティベースの精神保健ケアの推進に重点を置いています。

[CLICK HERE FOR INÊS & HUGO'S PRESENTATION](#)

（注：原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます）

グローバルな世界における持続可能な健康



René Keet

精神科医博士、EUCOMS 議長、GGZ-NHN ディレクター

René Keet は精神科医として活躍しており、オランダのコミュニティメンタルヘルス サービス GGZ-NoordHolland-Noord の国際化担当理事顧問を務めています。彼は、コミュニティメンタルヘルスケアの国際改革プロジェクトにトレーニング、eラーニング、サービス評価、サポートを提供する FIT アカデミー (Flexible, Innovative Top-ambulatory) を設立しました。彼は、サイエンスと臨床実践に加えて、自身の経験を専門知識のリソースとして活用しており、現在もこれを学んでいます。

彼は欧州コミュニティ精神保健サービスネットワーク (EUCOMS、www.eucoms.net) の議長を務めています。このネットワークの目的は、国際交流において互いの実践から学び、精神保健ケアにおける人権を支援することです。これはコミュニティ精神保健の共通のビジョンに基づいた実践コミュニティです。

コミュニティ精神保健は、人権、公衆衛生、回復、有効性、ピアの専門知識という 6 つの原則に基づいています。彼はこれらの原則を <https://vimeo.com/256413380> で説明しています。

彼は、モルドバの MENSANA (<http://trimbos.md/?lang=en>) などの精神保健改革プロジェクトや、ヨーロッパ全土およびそれ以外の地域でのその他のプロジェクトの国際的な専門家です。彼はウクライナのコミュニティベースの精神保健に関する WHO のコンサルタントです。彼は、精神保健に関するグローバルリーダーシップ諮問グループ (GLAG-MH) のメンバーです (<https://gle.world/>)。

持続可能な健康と環境



Luís Campos

医学博士、理学修士、FEFIM、FACP (Hon)

ルイス・カンポス博士は内科医であり、ポルトガル保健環境評議会の創設者兼会長です。彼は、国家保健計画 2021-2030 の委員、保健総局の顧問、欧州内科連盟 (EFIM) の医療の質と専門的問題ワーキンググループの議長を務めています。

カンポス博士は、これまで、保健政策実施のための病院ケアチームのコーディネーター、リスボン西部地域の救急科のディレクター、聖フランシスコザビエル病院の内科部長など、数多くの指導的役割を担ってきました。彼は、NOVA 医科大学の教授、ポルトガル内科協会 (PSIM) の会長、および国家医療品質評議会の会長を務めてきました。さらに、彼は電子医療記録の国家コーディネーターを務め、マカオ政府とアゾレス諸島政府に助言サービスを提供してきました。

医学教育と研究に多大な貢献をしているカンポス博士は、600 回を超える会議での発表、数十の出版物の執筆、17 の本の章の執筆、2 冊の本の編集を行っています。彼は EFIM のフェローであり、アメリカ内科医会の名誉フェローでもあり、2024 年に National Internal Medicine Award を受賞しました。

カンポス博士のキャリアは、国内および国際レベルでの医療政策、医療の質、医学教育の推進に対する彼の献身を反映しています。

[CLICK HERE FOR LUÍS' PRESENTATION](#)

(注: 原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

気候危機の状況における持続可能なメンタルヘルス コミュニティ活動における心理学者の役割に関するEcoPsiの見解



Tânia Pereira Dinis

臨床心理学者、EcoPsiポルトガルの
共同創設者

タニア・ペレイラ・ディニスは、臨床心理学者、認知行動統合心理療法士であり、個人開業、トレーニング、コミュニティ活動で20年以上の経験があります。彼女は、社会的包摂、青少年育成、LGBTQ+の権利、文化的多様性の促進に積極的に取り組んでおり、これらの分野でいくつかのNGOを共同設立しています。

2020年には、気候危機の心理的影響に焦点を当てたEcoPsiポルトガルを共同設立しました。彼女は、気候カフェ、エコ不安に関する講演、ワークショップを主導しながら、気候活動家への臨床サポートを提供しています。彼女の仕事は、メンタルヘルスと社会的および環境的課題の橋渡しをしています。



Teresa Raquel Pereira

心理学者、研究者、ミンホ大学の博士候補

テレサ・ラケル・ペレイラは、ミンホ大学の心理学者、研究者、博士候補生で、同大学のポジティブ発達および最適機能の研究チームに所属しています。

EcoPsiのメンバーであるテレサは、気候危機の状況下でのメンタルヘルスとウェルビーイングを推進しています。彼女は、ティーンエイジャーの気候ガイドマニュアルの促進や、さまざまな科学コミュニケーションイニシアチブのリーダーを務めています。科学出版物の著者である彼女は、気候変動の緩和と適応における心理学の役割に焦点を当て、気候リテラシーの向上のためにメディアと積極的に協力しています。

[CLICK HERE FOR TÂNIA & TERESA'S PRESENTATION](#)

(注:原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

メンタルヘルスサービスが持続可能性に取り組む



Freddie Ong

修士、不動産マネージャー、
GGZ Noord-Holland Noord のサステナビリティ リーダー

Freddie Ong 氏は、不動産管理と持続可能性の専門家で、メンタルヘルス サービス GGZ Noord-Holland-Noord で 10 年以上の経験があります。2011 年にデルフト工科大学で不動産と住宅の修士号を取得した後、メンタルヘルスケアの資金調達の困難な移行期にこのメンタルヘルス サービスに加わり、企業の不動産管理に革新的なアプローチが求められました。

Freddie 氏は、2016 年からソーラー パネルから始めて、サービスの持続可能性イニシアチブを先導しました。2024 年までに、この組織は 2029 年までに 72% の CO2 削減 (2015 年レベルと比較) を達成することを目指しています。2017 年から 2019 年にかけて、彼はオランダのメンタルヘルス部門を代表して Nederlandse GGZ に参加し、持続可能なゼロ排出への移行を提唱しました。

現在、フレディはヘイルーの 4 つの新しい建物とインフラ プロジェクトを含むプログラムを主導しながら、二酸化炭素削減、栄養、廃棄物、モビリティ、調達、廃水中の薬物残留物、癒しの環境、循環性という 8 つの主要テーマにわたって持続可能性を推進しています。彼の仕事は排出量にとどまらず、将来の世代のためのより健康的なライフスタイルと持続可能な慣行に焦点を当てています。

[CLICK HERE FOR FREDDIE' PRESENTATION](#)

(注: 原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

持続可能な コミュニティメンタルヘルスチーム

Chaired by

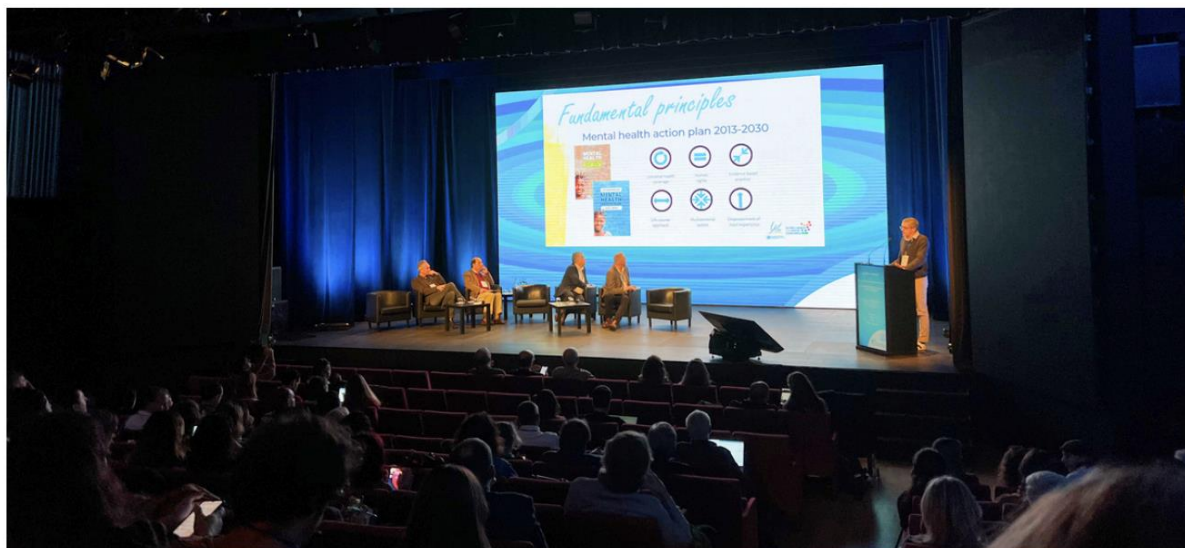


Caldas de Almeida

医学博士、博士号、精神科医、精神医学とメンタルヘルスの名誉教授
およびリスボン国際メンタルヘルス研究所所長

ホセ・ミゲル・カルダス・デ・アルメイダ博士は、NOVA メディカルスクールの精神医学およびメンタルヘルスの名誉教授であり、リスボン国際メンタルヘルス研究所の所長です。カルダス博士は、国内および国際レベルでメンタルヘルス サービス改革の重要人物です。

カルダス・デ・アルメイダ博士は、ポルトガルの国家メンタルヘルス計画のコーディネーターを務め(2007 ~ 2011 年)、ワシントン DC の世界保健機関 (WHO) のアメリカ大陸メンタルヘルス プログラムのコーディネーターを務めました(2000 ~ 2006 年)。また、欧州委員会のメンタルヘルスに関する共同行動(2013 ~ 2016 年)を主導し、世界のメンタルヘルス政策と実践に対する影響力をさらに強めました。



リールにおけるメンタルヘルスサービスの持続可能性： フランスの地域課題



Alain Dannel

WHOCCリール、メンタルヘルス研究・研修のための健康協力グループの
コーディネーター

アラン・ダネットは、精神保健研究・研修のための保健協力グループのコーディネーターを務め、10年以上にわたりWHO協力センター(WHOCC)リールの戦略委員会のメンバーを務めています。この全国グループは、フランスとその海外領土にある30の専門病院と一般病院で構成され、特にWHOCCリールを通じてフランスでWHOの精神保健政策を実施することに専念する201のサービスを代表しています。

アランは、WHOによって優れた実践モデルとして認められている、リール東部のコミュニティベースの精神保健(CBMH)サービスの推進を担当しています。彼の仕事には、QualityRights、ピアサポートワーカー、地域精神保健評議会などの主要なWHOCCプログラムの推進が含まれます。

この役職に就く前は、コミュニティ社会活動センター全国連合に15年間在籍し、選出された役人と連携してコミュニティの社会的イニシアチブをサポートしていました。アラン・ダネットは、国内外で革新的なメンタルヘルスの実践を推進し続けています。

[CLICK HERE FOR ALAIN' PRESENTATION](#)

(注:原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

ザモラ「網目状の」 メンタルヘルスコミュニティモデル



Manuel Franco

サラマンカ大学精神病理学およびメンタルヘルス教授、医学博士

マヌエル・フランコ・マーティン博士は、医師、精神科医、サラマンカ大学の精神病理学およびメンタルヘルスの教授であり、スペインのサモラにある州立病院の精神科部長でもあります。彼はサラマンカ生物医学研究所 (IBSAL) 内の精神科学研究グループのグループリーダーであり、サラマンカ医学アカデミーのメンバーです。

フランコ・マーティン博士は神経心理学を専門とし、認知評価、リハビリテーション、およびメンタルヘルスケアのアクセシビリティを向上させるためのテクノロジーの統合に重点を置いています。彼の研究は、革新的なツールとリハビリテーション技術を利用して行動の問題に対処し、生活の質を向上させる、認知症の心理社会的およびケアのアプローチに特に大きな影響を与えています。

優れた研究者である彼は、15 を超えるヨーロッパおよび国内のプロジェクトを主導し、多数の国際臨床試験に参加してきました。彼はまた、スペイン老年精神医学協会の会長、欧州老年精神医学およびインターネット ネットワーク協会の理事として指導的役割を担い、スペインのアルツハイマー病戦略に関する国家委員会のメンバーでもあります。

フランコ マーティン博士のメンタルヘルス研究への貢献は広く認められており、Web of Science に 153 件、Scopus に 124 件の論文が掲載され、h 指数は 26、分野加重引用インパクトは 1.967 で、この分野における彼の大きな影響力を反映しています。

[CLICK HERE FOR MANUEL'S PRESENTATION](#)

(注:原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

オランダにおける CMHS（コミュニティメンタルヘルスサービス）の発展



Niels Mulder

エラスムス大学精神科医、公衆精神衛生学教授

C.L. マルダー教授は、精神科医であり、エラスムス大学医療センターの公衆精神衛生学教授で、疫学および社会研究研究所を率いています。また、ロッテルダムのアンテス/パルナシア精神医学研究所の救急サービスで精神科医として勤務し、オランダ精神医学協会の会長も務めています。

マルダー教授の研究は、リカバリー、二重診断、精神疾患患者の被害、精神科救急、アサーティブアウトリーチ（積極的地域医療）、強制 (coercion) に焦点を当てており、記事、本の章、本など 300 を超える出版物があります。

マルダー教授は、ヨーロッパアサーティブアウトリーチ財団の会長を務め、欧州地域精神保健サービス提供者 ネットワーク (EUCOMS) の理事でもあり、ヨーロッパ全土のコミュニティメンタルヘルスケアの進歩に大きく貢献しています。

[CLICK HERE FOR NIELS' PRESENTATION](#)

（注：原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます）

ノルウェーにおける 持続可能なコミュニティメンタルヘルスサービス



Tor Helge Tjelta

ノルウェー メンタルヘルス・依存症ケア協会 会長

トル・ヘルゲ・チェルタ氏は、ノルウェーメンタルヘルスおよび依存症ケア協会の会長であり、オスロ市旧オスロ地区のメンタルヘルスおよび依存症ケア開発センターの責任者です。彼は、公共および民間セクターにおけるサービス革新の公衆博士研究員 (INSEPP) であり、保健および社会セクターにおける共同管理の修士号を取得しています。

EUCOMS の理事として、トル・ヘルゲ・チェルタは、ヨーロッパ全土でのコミュニティベースのメンタルヘルスケアの推進に貢献し、この分野での協力と革新を促進しています。彼のリーダーシップと専門知識は、統合された共同アプローチを通じてメンタルヘルスおよび依存症サービスを改善することに重点を置いています。

[CLICK HERE FOR TOR'S PRESENTATION](#)

(注: 原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

第1日目 まとめ

リスボンの思い出に残る夜：市内散策、カサ・ド・アレンテージョ、ファド音楽

EUCOMS リスボン会議の初日は、リスボンの街の魅力、アレンテージョの豊かな文化、そしてファドの魂のこもったメロディーが融合した忘れられない体験で終わりました。

市内散策ではリスボンの中心部を巡り、参加者は街の活気ある歴史、見事な建築、そして活気ある雰囲気に入ることができました。その後、私たちはリスボンの中心部にある歴史的な宝石、カサ・ド・アレンテージョで温かく迎えられました。

美しく修復された 17 世紀の宮殿にあるカサ・ド・アレンテージョは、アレンテージョ地方のユニークな文化、料理、遺産を紹介しています。華やかなムーア風の中庭、精巧なタイル細工、そして壮大な舞踏室を備えたこの会場は、その夜に特別な雰囲気を提供しました。

私たちは、伝統的なアレンテージョ料理を堪能する素晴らしいディナーを堪能しました。この料理は、この地域の豊かな食文化の伝統を味わうのに最適です。この夜は、リスボンの魂をとらえた音楽、アル・ムラリアによる魅惑的なファドの演奏によってさらに特別なものとなりました。心のこもった歌詞と感動的なメロディーの組み合わせは、出席者全員を魅了し、私たちに大切な思い出を残してくれました。

この特別な夜は、リスボンの精神を祝うだけでなく、EUCOMS ネットワークを特別なものにしているつながりと共有体験を祝うものとなりました。



現地視察

リスボンの7つのサービスからのインプレッション

EUCOMS リスボン会議の現地視察は、参加者に、リスボン全域の革新的なメンタルヘルスの取り組みとコミュニティベースの実践を探索するユニークな機会を提供しました。各訪問では、リカバリー志向のケア、学際的なコラボレーション、メンタルヘルスと社会的包摂を改善するための創造的なアプローチを強調した模範的なプログラムとサービスが紹介されました。コミュニティメンタルヘルスチームから画期的なアートとメンタルヘルス介入まで、これらの訪問は、ポルトガルのメンタルヘルス改革の進歩に関する貴重な洞察を提供しました。

専門家のガイドと実践者に同行して、参加者はこれらの刺激的なプログラムの背後にいる人々やチームと交流することができました。以下は、各取り組みの主な特徴と独自の貢献を強調した7つの訪問の概要です。



1. コミュニティメンタルヘルスチーム (ULS アマドーラ/シントラ-ダマイアおよびケルス)

この訪問では、約 60,000 人の住民にサービスを提供する別のコミュニティメンタルヘルスチームを視察しました。訪問者は Espaço@com Damaia デイファシリティを見学し、チームのリカバリー志向の介入について学びました。主なプログラムには、周産期のメンタルヘルスと精神疾患を持つ親の子供を対象とした Semente プログラムが含まれます。外来サービスは、非居住型ケアを必要とする患者の自立、機能回復、および社会職業復帰を支援することを目的としています。チームはまた、コミュニティパートナーと協力して支援付き雇用イニシアチブを実施しました。



2. コミュニティメンタルヘルスチームとESPAÇO@COM QUELUZ (ULS アマドーラ/シントラ)

この訪問では、110,000人以上の住民にサービスを提供するコミュニティメンタルヘルスチームが紹介されました。精神科医、看護師、心理学者、ソーシャルワーカー、管理アシスタントで構成されるこの多職種チームは、リカバリーに基づく介入を提供します。参加者は、評価、治療、心理社会的介入、リハビリテーションを統合し、自立と社会職業復帰を促進する Espaço@com Queluz デイユニットを見学しました。

主なハイライトには、児童思春期精神科サービスと共同で開発された、周産期のメンタルヘルスと精神疾患を持つ親の子供へのサポートに重点を置いた Semente プログラムが含まれていました。



3. ウルスロのコミュニティメンタルヘルスチーム 西リスボン/オエイラス

参加者は、オエイラスにある定評のあるコミュニティメンタルヘルスチームを訪問しました。このチームは30年以上活動しており、現在2,000人以上の個人をサポートしています。改装された消防署を拠点とするこの施設には、診療室、治療グループスペース、デイユニットがあります。チームは、心理療法、心理評価、家族介入、家庭訪問、危機介入、投薬管理を提供しており、すべて社会的包摂とケアの継続を促進することを目的としています。



4. リスボン市街地における ソーシャル・プリスクリプション（社会的処方）プロジェクトとコミュニティの関与

この訪問では、地元のプライマリケアユニット（USF da Baixa）でのソーシャルプリスクリプション（社会的処方）の取り組みに焦点を当てました。この取り組みでは、アジアからの移民や孤立した高齢者を、メンタルヘルスと社会的包摂を促進するリソースに結び付けています。参加者は、リンクワーカーと共同で個別のプランを作成し、芸術や文化プログラムなどの活動の「処方箋」を作成するという共同プロセスについて学びました。訪問者は、これらの充実した活動を提供するパートナー組織も見学しました。



5. MAAT博物館訪問と革新的なメンタルヘルス介入

MAAT 博物館では、参加者は芸術と人権、メンタルヘルスを融合した芸術とメンタルヘルスのハブであるマニコミオを見学しました。この訪問には、美術館や図書館などの芸術の場で精神医学的および心理的サポートを提供するオープンセラーピーネットワークも含まれていました。ハイライトは、マニコミオと共同で開発された「メンタルヘルスのためのロードマップ」プロジェクトで、メンタルヘルスのサポートとスティグマ（偏見）の軽減における美術館の役割に焦点を当てています。



6. ARIA – 精神保健リハビリテーションと回復のためのNGO

参加者は、1991 年以来、精神衛生上のニーズを持つ個人を支援することに専念している非営利団体 ARIA を訪問しました。ARIA は、心理社会的リハビリテーション、職業訓練、支援付き居住ユニット、在宅支援サービスを提供しています。ARIA Gardens などのプログラムは、職業統合、スキル開発、コミュニティへの再統合を促進し、自立を促進するとともに、意識を高め、家族のサポートを提供します。



7. カサ・ド・インパクト

リスボンのサンタ・カーサ・ダ・ミゼリコルディアが管理する 17 世紀の歴史的な宮殿にある Casa do Impacto で、参加者は活気に満ちた社会イノベーションの中心地を探索しました。この訪問では、起業家の間でメンタルヘルスケアを標準化し、企業が従業員の健康を優先するように促すことを目的とした TARGET プログラムなどのメンタルヘルスの取り組みが紹介されました。Casa do Impacto のエコシステムは、持続可能性、社会的起業家精神、そして社会貢献のためのテクノロジーに重点を置いています。



第2日目 プレゼンテーション

演者と各プレゼンテーションについて

サステナブル（持続可能）な回復

議長：ジョアキン・ガゴ



ポルトガルにおけるパイロットピアサポートプロジェクト



Manuela Silva

医学博士、精神科医、
リスボン国際精神衛生研究所事務局長

マヌエラは、リスボン・ノルテ大学病院精神科の精神科医で、コミュニティ精神保健チームと精神社会リハビリテーションユニットの両方をコーディネートしています。彼女はリスボン大学医学部の招聘教授であり、リスボン国際精神保健研究所の事務局長を務めています。

マヌエラは、ポルトガル医師会精神医学部の学長として、ポルトガルにおける精神科診療とメンタルヘルスケアの発展に主導的な役割を果たしています。彼女はまた、ポルトガル・アメリカ開発財団から第2回 FLAD 科学賞精神保健を受賞した優れた研究者でもあります。受賞したプロジェクト「クリティカルタイム介入タスクシフト（CTI-TS）モデルの有効性」は、リスボン首都圏の精神科入院治療から移行する重度の精神疾患患者に対するピアサポートワーカーを含むリカバリー志向の介入を評価するものです。

マヌエラのリーダーシップと貢献は、エビデンスに基づいたリカバリー志向のメンタルヘルスケアとポルトガルにおける革新的な実践の統合に対する彼女の献身を反映しています。

[CLICK HERE FOR MANUELA'S PRESENTATION](#)

（注：原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます）

ポルトガルにおけるパイロットピアサポートプロジェクト



Ingrid Hestnes Ferreira

CTI-ピアサポートのピアワーカー

イングリッド氏はピアサポートワーカーです。長年、メンタルヘルス上の問題と頻繁な入院に悩まされた後、2017年に自分自身をよりよくケアするための変革的な一歩を踏み出しました。睡眠不足やマリファナの使用などの主要な引き金を特定し、自分の状態を受け入れることで、彼女は徐々に意識、レジリエンス、忍耐力をもって生活を立て直しました。

偏見と経験不足のために就職が困難だったイングリッド氏は、ピアワーカーとしてCTIピアサポートプロジェクトに参加するという人生を変えるような機会を得ました。ポルトガルのこの先駆的な取り組みでは、6人のピアと6人のコミュニティメンタルヘルスエージェントがペアになり、病院からコミュニティに移行する個人をサポートします。9か月間患者と一緒に働きながら、イングリッド氏は参加者が住宅、生活スキル、精神衛生治療、社会的支援、教育/雇用などの主要分野で目標の優先順位付けを行えるよう支援しています。

イングリッド氏は、患者のためにではなく、患者とともに行動することの重要性を強調し、孤立を克服するために患者がコミュニティと再びつながるのを助けています。経験を共有する者として、彼女は、この仕事を通じて個人の成長と目的を見つけながら、他の人に理解、希望、エンパワーメントを提供する上で仲間が重要な役割を果たすと信じています。

この機会により、イングリッド氏は再び夢を見る力を得ました。彼女は、この画期的なプロジェクトが、ポルトガルでメンタルヘルスの問題に直面している他の人々に希望と変化をもたらし続けることを願っています。

彼女のストーリーを読むには、以下をクリックしてください。

[CLICK HERE FOR INGRID'S STORY](#)

(注: 原文のPDFのリンクからストーリーを見ることができます)

リカバリーカレッジの経験



Beverley Rose

ユーザーリサーチセンター（URC）のピアエキスパートおよびプロジェクトリーダー

ベバリー・ローズ氏は、UCLA（米国）で社会心理学と臨床心理学の学位を取得し、VU大学（オランダ）で文化と組織行動の学位を取得しています。彼女は、実体験を持つプロジェクトリーダー、コンサルタント、研究者であり、ピアの知識の推進に特化したネットワークであるユーザーリサーチセンター（URC）の代理として働いています。

ベバリーは、グローバルメンタルヘルスパイアネットワークのオランダ代表を務め、その国別リーダーシップ委員会のメンバーでもあります。URCは、オランダ国際メンタルヘルスハブ（2024年メンタルヘルスサミットの主催者）、EUCOMSネットワーク、IIMHL/グローバルリーダーシップエクステンジ（GLE）の主要パートナーでもあります。

魅力的でインタラクティブな話し方で知られるベバリーは、セッション中にプレゼンテーションに頼らず、自由に話し、聴衆と直接つながることを選択しました。ピアエキスパートとして、彼女はセミナーの閉会スピーチも行いました。これは、現地とオンラインの両方で行われるすべての EUCOMS 会議で守られている強力な伝統であり、実体験を持つ個人の声を中心とするイベントの取り組みを強調する有意義な瞬間でした。



家族のサポートと参加 FamiliarMente – 精神疾患経験者の家族協会ポルトガル連盟



Joaquina Castelhão

FamiliarMente 理事長

ジョアキナ・カステラオ氏は、2015 年以来、精神疾患経験者の家族協会ポルトガル連盟である FamiliarMente の理事長を務めています。深刻な精神疾患を患う家族の介護者として 30 年以上の経験を持つ彼女は、メンタルヘルスにおける家族の権利と代表権の擁護者として主導的な役割を果たしています。

彼女は、国立保健評議会、国立精神保健評議会、精神保健法および政策の改訂作業グループのメンバーを務めてきました。現在は、リスボンおよびテージョ溪谷地域精神保健評議会および医薬品入手可能性管理監視委員会のメンバーです。



Francisca Pelicas

MSc、FamiliarMente 取締役顧問

フランシスカ氏は、アヴェイロ大学で心理学の学位（2021年）と健康心理学および神経心理学の修士号（2023年）を取得しています。彼女の学業の歩みは、NEPAAUA^vとANEPを通じて学生の代表として積極的に関与し、メンタルヘルスの偏見と闘うためにヨーロッパ心理学学生協会（EFPSA）でボランティア活動を行うなど、擁護活動への強いコミットメントを反映しています。

現在、フランシスカ氏は、精神疾患経験者の家族協会のポルトガル連盟である FamiliarMente の理事会顧問を務めており、家族の権利と精神衛生の意識の向上に貢献しています。

[CLICK HERE FOR JOAQUINA AND FRANCISCA'S PRESENTATION](#)

（注：原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます）

就労支援



Jaap van Weeghel

博士、名誉教授、MIND理事

ヤープ・ファン・ヴェーゲル博士は、ティルブルフ大学の社会学者であり名誉教授であり、リカバリー、リハビリテーション、社会的包摂を専門としています。以前は、トリンボス研究所の精神科リハビリテーション研究部門を率い、精神疾患患者のリカバリーに関するオランダの国立専門センターであるフレノスの科学ディレクターを務めました（2010～2021年）。

リカバリー、リハビリテーション、社会的包摂に関する300以上の出版物を持つヤープは、この分野の著名人です。現在は、オランダでメンタルヘルスを促進し、精神疾患を持つ人々を支援する全国組織であるMINDの理事を務めています。

[CLICK HERE FOR JAAP'S PRESENTATION](#)

（注：原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます）

ハウジングファースト: 精神保健政策への貢献



José Ornelas

ISPA – Instituto Universitário 博士号、教授

ホセ・オルネラスは、リスボンの ISPA – Instituto Universitário の教授で、コミュニティ心理学の修士課程と博士課程を指導しています。彼は、ボストン大学とポルト大学で心理学の博士号を取得しています。

研究と実践のリーダーであるホセは、エンパワーメント、精神疾患を持つ人々のコミュニティへの統合、ホームレス問題の解決に焦点を当てた数多くの国内外のプロジェクトをコーディネートしてきました。彼は、ISPA の APPsyCI – 応用心理学能力とインクルージョン研究センターのコーディネーターであり、精神疾患を持つ人々のコミュニティへの統合を支援する組織である AEIPS の創設者でもあります。2009 年、AEIPS はポルトガル初の Housing First プログラムを開始しました。

最近、ホセはホライズン 2020 コミュニティ リサーチ & イノベーションプログラムの一環として、ヨーロッパの研究プロジェクト HOME_EU:ホームレスは不公平である、の調整役を務め、包括的で持続可能なソリューションの推進における自身の影響力をさらに強化しました。

[CLICK HERE FOR JOSÉ'S PRESENTATION](#)

(注:原文のPDFのリンクからスライドを見ることができます)

閉会の辞

EUCOMS リスボン会議は、すべての期待を上回る変革的な経験となりました。当初は100人未満の参加者を対象としたセミナーとして計画されていましたが、350人が参加する本格的な会議に成長し、ヨーロッパ全体で持続可能なコミュニティメンタルヘルスを推進するという勢いと共通のコミットメントが高まっていることを反映しています。

2日間にわたって、リカバリー志向のケア、コミュニティメンタルヘルスチームの実践、ピアサポート、メンタルヘルス統合への革新的なアプローチなどの主要なテーマについて検討し、経験を共有してコラボレーションを促進しました。洞察に満ちたプレゼンテーション、インタラクティブなディスカッション、充実した現地視察は、持続可能なメンタルヘルスサービスを実現するために取り組んでいるチームの献身、創造性、レジリエンスを実証しました。

Casa do Alentejo の温かいもてなしや魂を揺さぶるファドの演奏など、文化的なつながりの瞬間によってイベントはさらに充実し、コミュニティ、インクルージョン、そして私たちが行うすべてのことにおける共通の人間性の重要性を思い出させてくれました。

心からの感謝

このイベントの開催に尽力してくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。特に、次の方々に心から感謝申し上げます。

- Joaquim Sousa Gago 氏と Maria João Marques 氏。この特別なイベントの調整に、リーダーシップ、ビジョン、そして努力が不可欠でした。
- Miguel Xavier 氏。ポルトガルのメンタルヘルス改革に対する揺るぎないサポートと貢献、そしてこの会議での役割。
- Admedic のロジスティクスチーム。そのたゆまぬ努力により、すべての詳細がシームレスにまとまるようにしました。

また、このイベントに専門知識、経験、エネルギーをもたらしてくれたすべての講演者、モデレーター、ボランティア、参加者にも感謝の意を表します。皆さんの貢献により、この会議は知識の共有、つながり、インスピレーションのための真のプラットフォームとなりました。EUCOMS ネットワークは、このイベントを大成功に導いた共同の努力、眠れない夜、献身、そして創造性に心から感謝しています。

そして忘れてはいけないのは

EUCOMSはネットワークを超え、家族になりつつあります



パートナーになる

JOIN OUR GLOBAL NETWORK

それは可能です！精神疾患に苦しむ人々へのサービスを提供または支援する個人や組織は、パートナーまたは協力者になることができます。詳細と登録については、以下のリンクをクリックしてください。

[CLICK HERE TO JOIN OUR NETWORK](#)

ニュースレターを購読する

JOIN OUR MONTHLY NEWSLETTER WITH FRESH INFORMATION

毎月、私たちはネットワークのニュース、情報、最新情報、今後のイベントを共有しています。ニュースレターを毎月1回受け取るには、購読してください。

[**CLICK HERE TO SUBSCRIBE**](#)

[**CHECK HERE TO READ THE PREVIOUS NEWSLETTERS**](#)

Find us on social media:



Our mailing address is:
info@eucoms.net

Copyright © 2024 EUCOMS Network. All rights reserved.